

岡山県の地震

令和7年(2025年)10月

目 次

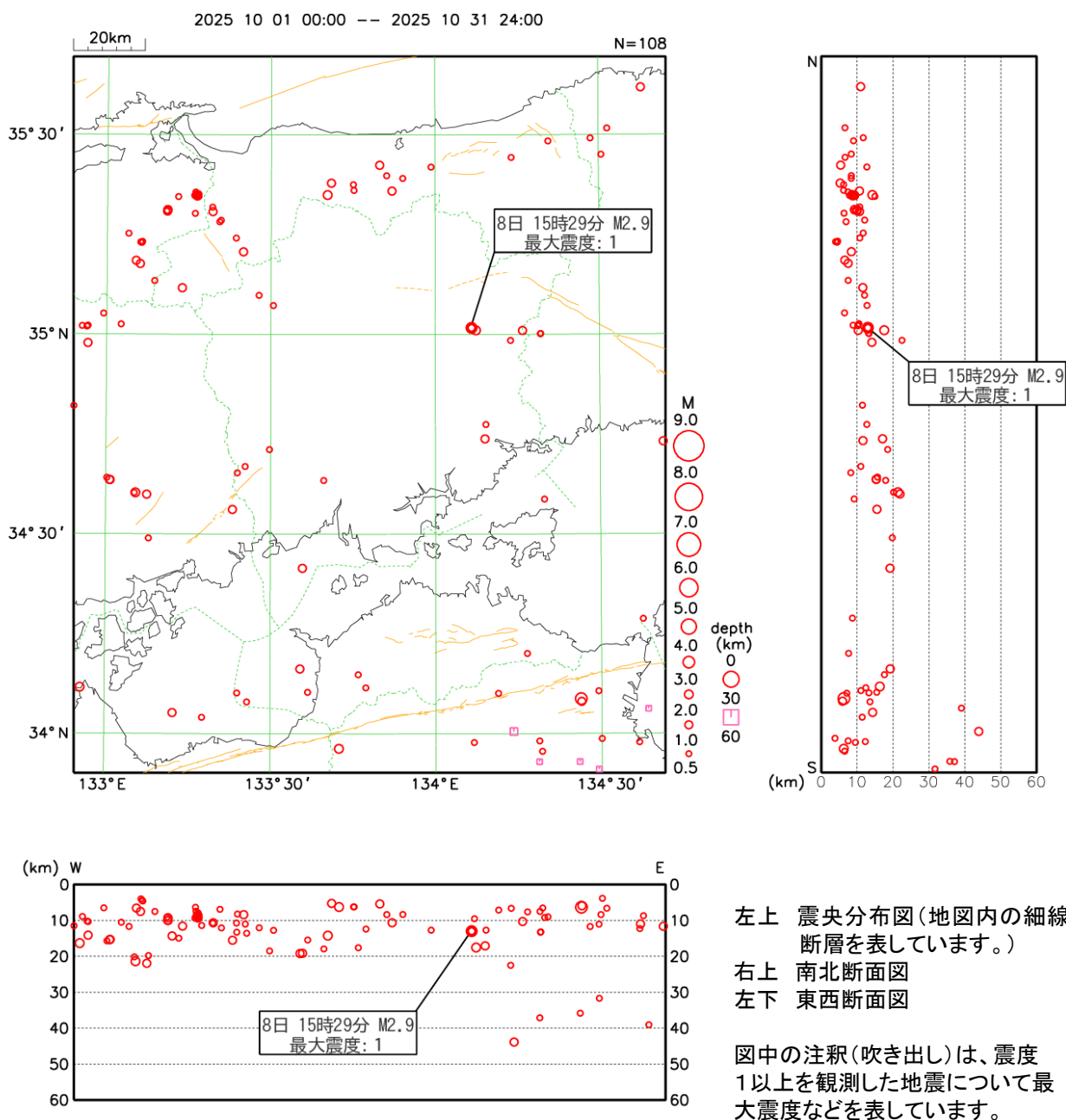
○岡山県及びその周辺の地震活動（10月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概 況	… 1
岡山県において震度 1 以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度 1 以上を観測した地震の震度分布図	… 2
○地震防災メモ No.238	
南海トラフ地震発生の切迫性について	… 3

- 「岡山県の地震」は、月 1 回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
 - この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
 - 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山地方気象台

岡山県及びその周辺の地震活動(10月)

震央分布図及び断面図



概況

・10月に岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は1回(前月:0回)でした。

岡山県において震度1以上を観測した地震の表(10月)

2025年10月08日15時29分 岡山県北部 35° 01.0' N 134° 06.6' E 13km M2.9

----- 地点震度 -----

岡山県 震度 1: 美作市真加部*, 和気町矢田*

注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。

なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。

2 地名に*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。

なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図(10月)

2025年10月8日15時29分 岡山県北部の地震
岡山県内観測点の震度分布



<地震の概要>

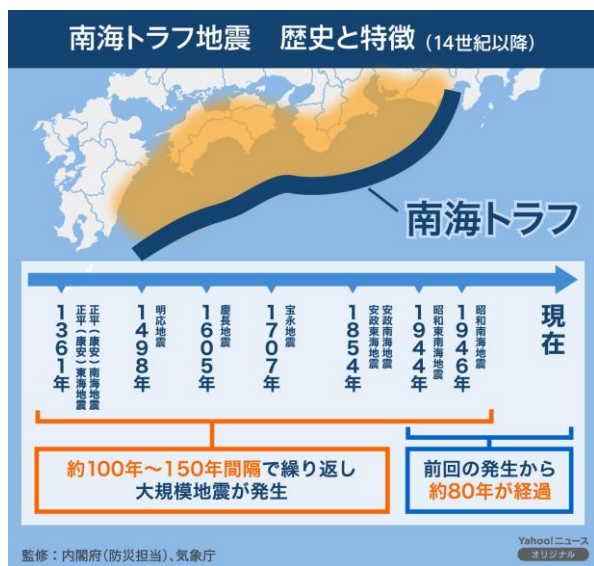
8日15時29分 岡山県北部の地震(深さ13km、M2.9)により、岡山県美作市・和気町で震度1を観測しました。

南海トラフ地震発生の切迫性について

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として、約100～150年間隔で繰り返し発生し、大きな被害をもたらしてきたマグニチュード8を超える大規模地震です(左下図)。最近では、昭和東南海地震(1944年)、昭和南海地震(1946年)がこれに当たります。

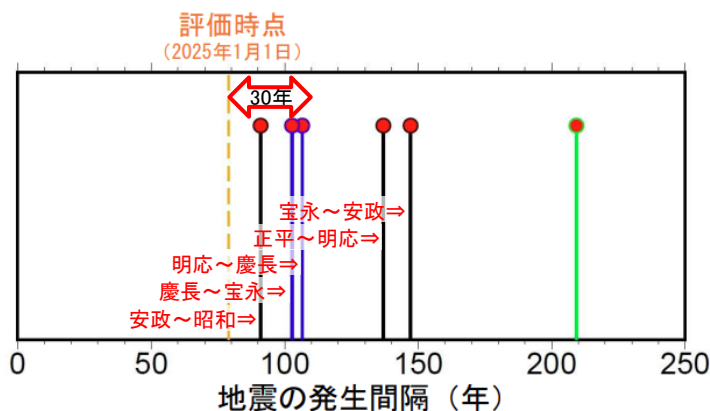
過去より南海トラフ地震の影響を受けた地域は政治・文化・経済の中枢に近かったことから、地震の発生時期や地震の規模と相関のある地震発生時の海岸の隆起量などの記録が比較的多く残されており、それらに基づく発生の規則性などについての研究がなされています。

現在、昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから約80年が経過しています。これと過去の地震の発生間隔とを比べたものが右下図です。今後30年間を考えると過去の事例に迫っており次の南海トラフ地震発生の切迫性が高いことがご理解いただけるのではないのでしょうか。



※Yahoo!ニュース制作図解・商用利用不可・図解を分割編集しての使用はできません。

南海トラフで発生した大地震の発生間隔



地震調査研究推進本部
 「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)」について」の図4に加筆

さて、地震の発生について現代の科学では予知することはできませんが、政府の地震調査研究推進本部は、防災対策の基礎資料とすべく、過去の地震のデータから将来発生すると想定される地震の場所、規模、発生確率を評価し公表しています。

その一環として、このほど南海トラフ地震の発生確率の見直しが公表されました。以前の評価では、地震発生に伴う高知県の室津港の隆起の記録が残る3地震(宝永、安政、昭和)の隆起量と地震の発生間隔のデータを基に地震の発生確率を評価していましたが、今回は、同じ3地震のデータを使った場合と、過去の7地震(正平～昭和)の発生間隔のデータを使った場合について、最新の知見と手法を用いて、それぞれ発生確率を評価したことが特徴です。

その結果は、用いる手法やデータの違いに関わらず、いずれの評価においても、**南海トラフ地震が今後30年以内に発生する確率は「高い」**と評価され、以前の評価と大きく変わりはありませんでした。詳しくは下記サイトをご覧ください。

このように次の南海トラフ地震はいつ起こってもおかしくない状況です。特に、科学的に想定される最大クラスの南海トラフ地震(南海トラフ巨大地震)が発生した場合、岡山県でも最大震度6強、津波警報クラスの津波の襲来が想定されています。それを念頭に置き、日ごろから地震の発生に備えるとともに、強い揺れを感じたら身を守る行動をとりましょう。

(参考)

地震調査研究推進本部「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)」について」

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/subduction_fault/#nankai_t